安倍清明物語 人相之卷 六

特へ遠13
2506
7-7上

安信時用人類異下目錄


第一　頭部
第二　髮部
第三　眉部
第四　眼部
第五　鼻部
第六　人中部
第七　耳部
第八　口部
第九　齒部
第十　舌部


人相下


へ遠13
號 2506
巻 7-7

第十一 手部
第十二 声部
第十三 足部
第十四 黒痣部

新刻晴明人相巻下

一 頭部

頭ハ一身の尊にして百體の長なり。純陽たる
にまるところ（身のまはりの陽ゆゑにまはりまるところ）又五行の宗なれバ必ず法
目口鼻耳舌これ五行の精なり 一 頭ハ人にハ高きところにあるゆゑ
天の徳をうくるなれバ也。心高く骨はさらに立て中高
なるをよしとして頭の上を形とるべし。頭皮
皮厚きハ衣食たりて、ひくきハ貧窮なり。
頭に肉角あるハ大富貴の相なり 額の両廉より立て角のごとくなるを肉角といふ
耳の後ろ骨あるを寿骨となづく。此骨多く立
たるハ命ながく、濁るハ命みじかし。髪際低きハ

このハはなりかみてていりちぢく髪際高くて
ひたいはやつしうかみしく命ぐ項の毛髪
たくさまもまぶハそのはひがくし広かして髪
ぬきさい北ぶうしてつを逆ぶ広とりてたくそぐ
だちてふハ位あり。ぶ小ふして頭ぶぐ立てうハ
美色なり。頭のをさ海りそぐうしてハたこと
して項のうさもをを撫ぐよ是ぐ。広面く
して長みぐ丸ハ福祐ぶ位あり髪撫をぶハ
刀傷とつしめ刀てうこと相り髪白くして後よ又黒くなる
ハ大吉也。ぴとと帝くまて八方にして乱まこ年なる
ハ大富をの相なり毛広いそのはかりぐしてこ



髪のうしらのくくに耳
あるへつこぶぐり。詰項よさぐりあるハ福こ
び吾姫ぶ

## 二 髪部

人の髪頭ある事ハ山岳に草木あるごとく
ぶ。草木の生ぶりて豊なるハ山岳寛くうる
ハつぶれど人毛髪も豊みして細くしてそれり
ときゆるくうるを美也。みぐうるをあくに固あるをぬくしぬ髪ふく
して光りあるを表て芳こハそ人のおも髪の色
あくに黄なるハよぶこうひおりー髪粗くく硬
常のこくくるのそうなるものをはつくしてひそり
方也髪ちげくぶ生て番くうたハ美綾なり。耳のか

よ髪の髪生さゞ〻乃毛ハ毒ハ有て力枝乃
雜わり。髪髪乃つきこゞ毛
まで長くたり〻髪くろく細きハ常よりとて三業元と
ひくを髪の中ふ赤理ある毛乃あゝゞ力
枝ち髪乃元と罕ふとよりて髪くろく白
さい毛乃ところくろる也ハ病ハ有て命ハ
乃年いまゞ有て髪白きハ親よふ家わり。髪
硬き乃ものハ揃乃毛乃人乃長下とうれた毛長き

三　眉部

それ眉ハ面眼乃うとりとして毛乃上よりハ生とり
細く平ふ有てうるひあるとなゝに美て多ゞきハ
智毒ゝ毛に眉乃毛ハ乃くしまに乳出て
てこうゞくちゞこゝ乃ものハ性とろる也。卑して髪
ふものハさうまたゆふ性つく後さるるハ性やう
也。眉乃長せゞく生命こるハ美色なり。眉乃骨たの
多ゝ有ハ性ハ乃ふて地とたゞこりて細ゞこ眉
乃中ふ毛よりハ命ふ毛ハ乃ふ毛にて黄なり眉
たりして乳乃中よりものハ信あり。眉乃中ふ白
毛あるものハ命ゞ眉乃ふ毛理ある毛
横理あるハ美ふて乃ふ毛理ある毛
のくるハつうりゞ眉うとくあるのさか
うゝひあるハ智毒眉乃毛ハ乃ふ毛
ふて三日乃ことくふて

まゆは西垂れ長めなり。目もとうるはしく、さいひとり者と
なりて、あるいは眉の形よく疑あり。あるいはそのそば
かすかなるこのむ眉は尾より痣あるはなどまゆ毛
て逆毫あるは初めはしてなし。眉毛うすく逆毫あるは初めはしてなし
女は眉は丈夫よりなること。眉一文字のごとくなるは
主あるいは悪あり

## 四 眼部

うまれつきの日月のごとくなるは、男
の相なり。眼は人身の日月なり。慈悲
精神なり。あるいは眼は長し。あ
ゆるがのごとくなるは、男の子の相なり。

つまりてうるわしく、黒白分明なるは、細くしてふ
くさいは命をのばす。性ひがくしまあるいはひろく
睫あるいは命をのばす。中ごろ
ぬきでるは、細くして長く、中ごろ
ぬきでるは、あるいは豚睛とつねに如ころされ
目小さくして、黒白分明なるは、目のさ
ろうとして、黒人の子となる。目の下ふくれあるは
女は、那蹇あり。九つ小さく、みな黒
綾の相也。睛の黒白あるいは海中まろび目玉三
角あるは悪相也。目玉黒く睛黄なるは命のやう。目尾
大なるは、夫婦ともに。睛小なるは白目

大きなる鼻は財よくあつまる也とあるは相也うしろ
向てとこの方へ向かつてゆくと。面眼乃肥下ふ感わるい
家舍もこう也。眼乃下より一文字わるは閉る也相也 癸
時は目のさいてさけて癸一

又 鼻部

それ鼻は中年也 人の面よりこの
花嘉うり面のごとくしてふ準既癸うに
孔昇うしろ。和よわるつる也。鼻乃相也
ムラ〳〵肉うとさは命下ちゑ〳〵ゆ準既実細き
ふくりうしろ。横より規わるは車より宮わる
繊れわるものはあり。鼻準寿乃貴より劣るは



そもそも鼻は骨なり。鼻梁より骨なきは短命也 梁鼻わ
れるは子は孤独みなして妻と準既ならるひつやさ
て出る 鼻の三光 わるはつゆ。孔仰さるは妻より一妻乃相
とどりわさは貴後なり。孔仰大なるは富なれども後より貧くなる面
ぶくもそなはる。孔大なるは富なれども後より貧くなる面
乃四岳はあの頬車 昇 漏て鼻のこと大なりてこうさ
は貴みてもさうなる 向嵩 そりて唇乃ふくらみ
懐より横ねらく鼻乃孔仰のさるは厳死と鼻既
とどりてふうものは大欲なりて義とうとゞ鼻梁
乃ようちゝみ乃ゝくなるは無性也。鼻の形ち尚さん
しくなるは富その相也

六人中部

夫人中ハ海内乃なと北とふ海川乃あるごとし
海川通どれとも流まて枝さいとくて枝さハ
ふ流をごとし人中ハ貴くして綿まつん
流くして貴ふとをとりかゝくしてとふ言を
好こと細くしてせどさいと衣食とりを流くして
年らくるハ災害あり上せつくとひろさいふ流おか
を上ひろくとせこれいとみあり流くしてきこと人命
あり流く流くさい短命せ人中乃ゆゑを流ゆゑを
ひとりおり也なるハあるまあるを竹のごく
竹をとりなを四のごくなる人ハ位こくく富をせかくくして竹の

おくなる人ハ子をくしてたりも貴をとりう人中のと
ふ子をあるハとふ子をあるハ女をあるを
あるとこに子をあるハ双子を生ん横理あるハ
し人中年りあるせをきこあり子を孕ゝまでを
を貴あるてしやし

七　耳部

それ耳ハ北海乃海岸あるごとし風波の動
動き岸とをて耳ハ骨を通ていれ者ノ
とをとをを聴あり音聲をこの為り耳ハあつく厚し
そ乃色白とをかをこの為り耳ハあつく厚し
てをぐうぐたるこをとををしんこを相とをて輪

廓缺たるはあしく耳のかざりなき也垂珠なきと口のさまむかひたるは賤ありて長命なり耳の内に毫生ずるは又寿もし黒子あるは聡明にして老人ハ孝子を生ず耳門ハ耳の孔の間ハ智恵ありあり色白きハその名をとりあらハるゝ也さハ天賤なり耳ちいさくしておのが身よむふさるものハ田宅をも賣つくし貧乏なるべし左右の耳大小あるハ物ごと障ありて害ありし濃えありてうるハしきは名高しくろくよごれて粗しきハ愚にして短命長くして目よりも高くうびえたるは人家の師となるつまびらかにいふべし耳輪丸きハ衣食そなハるべし又



の耳廓ハ垂さがりハ富貴あり耳たかくして根乃とがりてかそ是ハ耳のやうなるひ目とを之てたくくれこれ寿賤ありて短命なり耳そりかへりて輪の方よハ孤子となり又下賤にしてまづ輪廓垂珠あつくもきさハ仁義忠節ありて文学ありとがんぐよわく耳ちかく輪廓垂珠まどくにかなひれどもやつるるハ賤にして後よりハ見ゆるとも耳るぞぞちて眉よりたかくとも下に垂珠なきハ賤どうしなりと見ゆるとてちかきハ貧しく耳小さくして口大なるまたハ智をたりハ人と争ふ耳くろきハ愚にして貧也乳もおほくも賤にして短命也

八口部

されば口は言語乃門戸にして
善悪共あらはれいでるところ也故に慎
りなきは口慎と云べし人とそしつる間
とはりくちは口乃綿と云べし口は方圓
雪よりてしろくなれども人乃相よりて命をば
ち海月と作る故に唇乃厚きは安佐
ー撰よりて厚き薄きは福分つよし衣
食乃ー多くは口乃四文字乃ごとくなれば大富祐あり口と
ぶりて反ると云ふ唇うとれば貧
しくして口ごきたなく口乃のごとくなれば猛烈なる嵐乃口

乃ごとくなるは人とそしつる猛烈なることもとやとそしること
ごとくなれば貧みてただちに猛乃口はん
ーくて辛うして能理はなし人を餓死せしめ口とのづから
ひくきは人ごとくみて嘲乃あるはなれ出るは
恵まれ貧乏なり口ひろくして下綿なるものは
嵐乃ごとく嵐乃人よりして厚乃人と云べし
あり舌は口乃中乃城郭
城は強く力強は利と申也たんと強力乃ごとくなる
さは強くして福分あり舌乃ごとく厚く舌乃
命也口ふとくして舌とでうさはいとうまして貧也厚あつ
き人乃口乃中也口つぐみあり

つまこは人の極悪にして世を傾ける者乃ものあり。
口乃めぐりむつまじくなるは大歓みして宮あり。
いろんとてまびらびふうぐくものくんよりの
つまうぐまうきおわり。唐あるくつまさハ四地獄
とうり蛮して多也と唐也くロ調下唐とぐりてふる
ハ人とわざしさ人とちつまりうぐまうきて
そおりうきおわり。唐乃色あるく多ぐも歯の足
えぐうはそ人の相也唐ちて下宮さハ悪節わり。上
下うとれハ歯痛を

九　歯部

それ歯ハ百骨乃の為のあるの精花骨のあよわまり出るる花なり口の長兄

りとうとうとして百和と剣仏ぢひあるよ歯ハ生ふ
て密よりうるまると長くして敷地ハさ白くして清
光わるとぬるとん歯りうう密ちるは命下あぐ二ちまこ
を小たとうさりて生ばふものいんぐてひぐとよ
あり陸地ぢまぐくに遠ふあるよりて小ふる歯ハたるふて
多ぐ。ものひとて歯乃ものよ足ぐさるは宮者乃和也
四八の歯ハ生候こ年六ハ五四国生こ年一四八者生あり
て宮ぐ人四二八中人の福徳こ年八世のちる乃福楽あり
四八八下綾乃ともぐちり。歯乃足ぐ美ちるいちとび
ぢよさりあるも石極ふのこくたるは福徳あり
白くしてこ海ちるり極ちぐりたふハ位ちり米粒よ此ちハ

も命ありやそもそもどりて稲もこの蟲よりぞうる実
をうりぬ蟲ありこと出へひとつうぐいすなきつれもうま
雨一唐紅蟲白さ人学乃人多利

十　舌部

それ舌ハ志魂のつとうるところ心魂乃わるる而
性命乃柱とうて一身乃幸ありぬ心の義
う相ぐうてこと多と性うく物共乃ぐまうるもの
舌ちうそれるうりのみ。みぐうまにうぐうておや
さ此とまもくまおうれてこと舌ハ湯ゆ志くぐ
くだなるいを人のおせぜぐ志くさハつりて
ぬとうこれぬよりてうとさハ高ぬおり実て小るも

も相とむさぐう鼻ハ舌とあるてのぐうよ位主侯
よ主ぬ鼻まで志ぐくうの位主侯
て味のしくくなるも人を人乃相そ乃ゑあくし
ハ下茅乃人也ぬ白く庚乃しく鼻わう
舌乃ちよ蟲ぬあるは官位ちく志ゑ人わうはを
ちとう舌ニ小志ちあるはりのて事実ぬ。ぬの
いうんとうて舌まづ出るは高ぬなり。舌みぐうて大
るうは高みて実也舌ハ小ゑ人ちさハ世のちさ人也
舌大よ口小なるはものてあまあさうあうぐ舌
小うして失るはぬのひとあくわさらをぬうて
うぐかさハ実みうてやり

## 土 多部

ぎんれんはうく抱とうりんつよおてうひて用捨とう
ところやぢゆつり織ちいさハはよ意也ありて人
うり抱行こうぢんぢうくあり人さものハはしゆ
く鏡ゆうぢとたゆ書く膝とうとおハ世乃生
貫ゆうりぢとうれくわが脳とうどおハ一生まづ
しまゆ一分ゆよう夫ゆうは稲佑あり分大よ
ぢゆうるハ清也　まづ鏡ゆうくれた鏡ゆうくうゆ多の落さハ
貫也ゆ書多さハ篇也ぢ。ぢふ汗をふぢうあうくこ
書ゆうくれハまつぢゆ。指ゆうくちぢハ智あり
指ゆうくゆ前ゆうさハ篇ゆうりもしゆ。掌ゆうして

篇さハ人の相也たるぢう宮方うりたく中鏡
ゆうは篇也四方うしさハたりゆうぢぢ乃肉
わくゆ乃ゆうは篇ゆうたとひくぢぢ多の肉ゆ
貫ゆうはつりて織ゆぢ多乃肉の四中にはつ
あうは篇也ぢ多の肉乃ゆ級ゆうくハ下相也級ゆうく
ゆうさハ上和也豆理ゆうはさハはみぢ也てゆうひ
れゆう。指ゆ乃れゆうさハはゆうりてゆや。豆理
也に指ゆうつぬくハ方ゆ手ゆうぢとうぢふ級ゆうふ
して乳線乃也ゆくゆうは稲佑也智あり。級ゆうく
しゆ乳也ゆうぢハ篇ゆ。ゆして貫織ゆうり。十指乃上に
十のゆび乃ゆうとゆ。縫ゆうり螺乃ゆうくゆうハ掌ゆ乃きゆ人ゆうり。甲下

うもさい命おぐらは甲厚さい命おぐ。甲とぐはい
智恵おり。甲彼おは相成能をぐ甲うるはい我実
ゆうも地掌乃関ふ交交 柳線級 爻 三爻 人 一爻 車 鎖級
入 華蓋 爻 生奥 井 食井 井井 双井 井井井 三井 十 一文級 口 金釜
囲 棋盤 品 実孫 うるは丸級あるは冨を出を書るるあり
刈刈 服 部就級 ノノ 横尾級 刀 刀字 丁 丁字 开 柳鎖級
又 変文級 土 古字 八 央字 川 産花級 血 姫高級 これうの
又 あるはい大ま ま 恵をおるぐ 去むを 中 はいふ 毒
の級あるへ
十二 声部
あう天おりて 男乃ふ 美人の相也 奥ふ

て男大なるは下機乃相なり。奥ふ男のとく
ふは美おりてたるり。竈とうぶ家ぐこと地
よひぐ色奥ふは恵なり。男乃奥ふ。世おりて世おり
下機美病なるべし。女乃奥なる男おりば美国ふ
してひとり男おり。郷乃奥れしく辛さいおひ色
手彼色屋ちく位おり。奥ひとく相なり。奥ひとく
て言くことゆうは世人乃相也奥ふく色言ふ
きいふ人なり奥ふ渇りなり。間ちおぐれおつい
づこ乃こくなるは拾めくせ人の相なり。舌乃揚ふ
て拾ふ奥ふ人なり
十三 足部

それ是ハ一分乃相続ハ地下ハ神社ハ
ちゃうそんよりさだめて分をそこなふまじそ乃用
利千金をもつくこゆる山ゆへ人乃是をふ
けうて富をなしちゃうそんを大なると福を
脚乃うつぶ級をさいて機乃相ちゃうそ是乃うつ
ふあるは大きへ人ちゃうそ是あるうして撰よひろくハ美
みて高ありとあるべし脚乃うふ旋乃級あ
ハ名をくそ天下うさこゑあるゆびをくを
きを名乃部乃ちゃうそあるゆびをて
しくをまくのだれいへうきて賢あり
十に黒底く部

とうそ高ハあるハ山ゆいうとこゑ
ちゃうそ清ちゃうそ生ちゃうとぬとしたぱ山ゆ面を
あるとをうしたそ乃ちゃうきハ清と長ちゃうこ
くあきハ米のこくくちゃうとうきあるこ雑塔
と色ちゃうは口舌刑死ちゃうそ人
人面乃ちゃうそ天中よあるゆ河ハ男ハ父母ちゃう妹あるを
女ハ夫とちゃうたそ天庭よあるハ
稼よ死ちゃうそ脚よ厄あるそ高ちゃうあるハ
を人支配あるそ業燈よあるハ女とこゑを地図
よあるハ横部よあるハ左廟よ
ハ高位よのだうたくちゃうそ二親よとちゃうを也奥尾好つ

うあるはちまたの道端の桐也極軍にたにわり
あるはち巻よりおとす。井神よりくりあるは井
う蓋をおとす桐也。山桐よりは一族よりまま
る。耳の根より弟をいるは高麗桐あるいはいるる
道でしゝ中みあるは稜りあるもありて使ひ
是乃唐よりあるは共人乃桐たるは大富裕わ
つま。服よりあるものハ高信よりかしづる乃服よりあるる
ものを官祿よりもちて富裕なり。勝乃ちにあか
ものハ共人乃子を生ず。勝よりあるものハ家さるも
あ乃乳よりめぐり腸よりもちてあるものを智恵わ
つまて富裕なり

右はあふ人相乃稜桐稜まちくわり多くを
もべるべきの八卦おを冠りけてう
なひ相もべ一出所おを八本生火ニ生土
土生金ニ生水ニ生木とおまし。桐冠と八本冠
ニ冠あニ冠火ニ冠金ニ冠木し桐冠と冠
中より生あり。生年より冠ありみかこ文あるも
多をべしてハ禁しく晴ふく天文地理人
事のこゝを一心乃ちにさとり後代よ志め
のうに籠籠関係の奥義世よ志るへきもの
今伝授よ陣りもて他乃書乃書とりての天下
家男女日用乃体とうしるものや

宮内庁書陵部

安信時の死人相葬に終

延享貳乙丑歳八月吉日

京都

書林　岡宇兵衛求板